

はじめに



データサイエンス教育研究センター長

竹村 彰通

スマートフォンなどの情報通信機器の普及によって、世の中の情報の流れが大きく変化し、いつでもどこでもインターネットにアクセスし情報をやりとりする時代となりました。インターネットに蓄積される多様かつ膨大なデータがビッグデータであり、このビッグデータを対象とする新たな学問分野がデータサイエンスです。

滋賀大学では本年4月に日本初のデータサイエンス学部を開設し、新入生110名を迎え入れることができました。それに先立つこと1年、データサイエンス教育研究センターを2016(平成28)年4月に設置し、新学部の準備をおこなうとともに、データサイエンスに関する価値創造プロジェクト研究などを推進してきました。本センター報告は、2016(平成28)年度のデータサイエンス教育研究センターの活動や、それらの活動から見てきたデータサイエンスの最新の動向についてまとめたものです。

データサイエンス教育研究センターは研究機能や社会との連携機能を担うセンターとして新学部設置後も存続して、1) 基盤研究、2) 価値創造プロジェクト研究、3) 教育開発、4) 調査・情報発信、の4つの分野の活動を進めて行きます。

データサイエンスの技術的基礎はデータを処理するためのデータエンジニアリング(情報学)及びデータを分析するためのデータアナリシス(統計学)であり、これらの手法を、さまざまな領域の問題に応用して新たな価値を生み出していくこと(価値創造)が必要です。これらの能力を備えた人材をデータサイエンティストと呼んでいます。今日、データサイエンスは国際競争力の源と考えられており、世界中でデータサイエンティストが求められています。

特に日本では、いままで統計学部や学科が存在しなかったこともあり、この分野の人材不足は深刻なものになっています。このことは最近の政府の文書でも強く指摘されており、実際多くの企業がデータサイエンティストを採用したい、あるいは従業員を再教育したいというニーズをもっています。滋賀大学データサイエンス学部は、我が国初の学部として、日本でこの分野のトップとなり、多くの有能なデータサイエンティストを輩出することを目指しています。

データサイエンスはすぐれて文理融合的な分野です。データサイエンスの技術的基礎であるデータエンジニアリングおよびデータアナリシスは理系的ですが、最近のビッグデータ時代において最も価値創造の余地の大きいデータは人々の行動履歴に関するデータであり、データサイエンスの応用領域は主に文系と言えます。このことは、本報告で紹介している企業や地方自治体との連携にも現れているといえます。

本センターは今後も多彩な活動を進めていきます。本センターの活動に注目していただくと幸いです。